

事例 95

校務・業務の効率化・情報化の推進
～オンライン面談の推進による勤務時間の適正化～

姫路市教育委員会

業務の分類 g、t

課題や要因

本市では、市内の3歳から18歳までの子どもを対象とした教育相談業務を実施している。相談内容は、不登校や学習への困難、発達のことなど多岐にわたるが、その支援を検討していくにあたっての実態把握のために心理発達検査を実施することがある。検査結果や支援方法については、保護者だけでなく、保護者の了承を得て検査情報交換会として所属する学校園所とも共有している。

検査情報交換会は、これまで該当の幼児児童生徒が所属する学校園所の担任等に、総合教育センターまで来所してもらい実施されていた。近年の状況から、そこには以下2点の課題があった。

○本市は南北に広く、総合教育センターはその中央部に位置しているものの、最も離れた学校からでは車で片道1時間ほどの時間を要してしまい、そこに付随して交通事故発生の危険性があること。

○新型コロナウイルス感染症の流行により、人と人との接触到に制限や不安が生じていること。

取組内容

GIGA スクール構想の下、姫路市では市立小・中学校の全児童生徒および教職員に一人一台端末の環境とGoogle アカウントが付与された。上記の課題に対して、そうした環境が整ったことが後押しとなり、検査情報交換会のオンライン化を実施することとなった。

概要は以下のとおりである。

○使用アプリケーション

Google Classroom Google Meet Google Drive

○実施の流れ

- ①日時と教育相談専用 Classroom への招待コードが記載された案内文を学校に送付
- ②教員は交換会までに Classroom に参加し、資料等をダウンロード
- ③Classroom から Meet に参加してもらい、オンライン検査情報交換会を実施
- ④実施後、教員の Classroom 登録を解除

留意点

相談内容や検査結果といった繊細な個人情報扱うため、以下の2点に留意している。

- 学校への案内文や資料から個人の特定に繋がる表記を削除
- 面談中は個人名ではなく「Aさん」と呼ぶ

取組の成果（期待される効果）

参加した教員と教育相談員に対して、アンケートを実施した。

回答のあった教員の8割以上から、「業務改善に効果があった」という評価を得ることができた。

【教員の回答より】

- 移動や自習準備に必要な時間が無くなり、他の業務に充てることができる。
- 総合教育センターへの出張のために、担当クラスを自習にする必要がなくなり、子ども達に向き合う時間が確保された。
- 校内で実施できるため、参加者（管理職やコーディネーター等）の日程調整がしやすく、複数参加ができて情報共有がしやすくなった。

【教育相談員の回答より】

- 出張ではなくなったため、先生方との日程調整やスケジュール管理がしやすくなった。
 - 通常の面談で話すよりも時間を意識して、より整理のできた話し合いができるようになった。
- 出張に係る時間や旅費の削減だけでなく、想定以上の効果があり、今後も継続していきたい。

